

優しさに包まれた湘現会

若狭芳生

2007年に大阪の浪速社から出版した処女作禁言迷言「駄じゃれの泉」の本をあちこちに宣伝しまくってありましたところ、梶田先輩がPRのし甲斐があるところがあると言われ連れてってくれたのが「笑考快議処」でした。

その場でみんなが買ってくれ気をよくして「笑考快議処」に入会しました。

ところが「笑考快議処」は老人会の「湘現会」というパトロンがついており別に年会費を払うはめになりました。それが湘現会との出会いです。

その後新年会や忘年会にかつぎだされ、掛け言葉遊び例えば小野小町「花の色はうつりにけりないたづらにわが身世に経る（＝夜に降る）眺め（＝長雨）せしまに」などの話芸を披露しました。

「今が青春18切符くらぶ」は創立メンバー四人の一人です。

第一回目の豪雪只見線回遊旅行では小出駅で女性会員が誤って別の列車に乗り込んでしまい、彼女を一人東京に帰してしまったのも懐かしい思い出です。

湘現会は老人会らしからぬ老人会です。

私は75歳で重度の視覚障害のうえに肺腺癌ステージ4の宣告を受けている身です。

しかし、平成30年の全国障害者福井国体の平泳ぎ競技で銅メダルを獲得することが出来ました。まだ自分にはこういう力が残されているので一度は退会を考えたこともありますがこれからも出来るだけ湘現会を楽しみたいと思います。

皆さんから街中で声をかけてもらったり、旅行先や新年会などで障害者の身にやさしくお世話をしてくるのは何よりもありがたいことです、感謝申し上げます。